

## 浙江海洋大学中国海洋文化研究中心 学術交流協定締結

締結日：2016年5月25日（水）

### 浙江海洋大学中国海洋文化研究中心との 学術交流協定締結

小熊 誠

日本常民文化研究所は、民具を中心とする物質文化と漁村資料を中心とする海洋文化を中心に研究を推進してきた。2009年度から文部科学省によって採択された国際常民文化研究機構は、日本常民文化研究所の資料および研究を基礎として、国内および国外に対する研究ネットワークを構成することを目的としている。

その活動目的の一つは、海外の関係機構と学術協定を締結することである。とくに、近年東アジアにおける海洋文化研究が盛んになり、本研究所もその研究ネットワークの形成に力を入れてきた。すでに、上海海洋大学海洋経済文化研究中心、中国海洋大学海洋文化研究所、木浦大学校島嶼文化



写真1 浙江海洋大学中国海洋文化研究中心を訪問。中央は王穎教授

研究院などと学術交流を締結してきた。

浙江海洋大学中国海洋文化研究中心とは、国際常民文化研究機構の共同研究「東アジアの伝統的木造船建造および操船技術の比較研究」を通して交流を展開してきた。2015年3月の中国船調査において、舟山群島の木造船造船所を訪れ、その際に舟山群島に位置する浙江海洋大学の人文学院院长であり中国海洋文化研究中心のセンター主任である王穎教授と会って、研究協力に関する話し合いを行った。この話し合いの成果として、2015年4月25日に行われた「舟山群島与海上丝绸之路」のシンポジウムに、昆政明教授と小熊が参加して研究報告を行った。浙江海洋大学との交流については、本学歴史民俗資料学研究所後期博士課程修了で浙江海洋大学に就職している干洋さんに協力していただいた。2016年2月に再度訪れた舟山群島調査の際に、浙江海洋大学中国海



写真2 調印式（2016年5月25日）。王穎教授と田上所長



写真3 下段左から王穎教授、干洋氏（浙江海洋大学人文学院中国海洋文化研究センター研究員）と田上所長、佐野所員。上段左から、昆、小熊、内田、安室、前田各所員

洋文化研究中心を訪問して、王穎教授をはじめ研究中心の先生方と交流を行い、本研究所および研究機構との学術協定締結について合意した。

この合意を受けて、2016年5月25日、神奈川大学日本常民文化研究所・国際常民文化研究機構は、浙江海洋大学中国海洋文化研究中心と海洋文化研究に係る学術交流協定を締結した。当日は、王穎教授と干洋氏が神奈川大学に来学し、学長への表敬訪問ののち、調印式が行われた。

浙江海洋大学中国海洋文化研究中心は、2009年に中国国家海洋局から海洋研究に関する研究機構として指定され、海洋史、島嶼文化遺産、海洋経済、海洋文化交流などの分野について研究を推進している。舟山群島と日本とは、観音信仰の交流や漂泊などの歴史的交流があり、また近代以降漁業に関する交流も行われて来た。今後、本研究所・研究機構との学術交流に期待が持てる。